

# 研究概要及び研究成果

## § 2. 研究概要及び研究成果

### 2-1. 目的

橋梁は、その材料を鋼材とする鋼橋、コンクリートを主とするRC、PC橋がほとんどをしめ、各々、その材料特性・架橋地点の条件などを考慮して、橋梁形式が決定されています。

橋は土木構造物の中でもとりわけ人々の目に触れ、また、利用される機会が多い構造物である。さらに、橋ができるとき架橋地点の周辺環境、景観に与える影響は大きく、単に架けるだけでなく周辺景観等に配慮した橋梁が求められています。

一方、鋼橋の製作施工は機械化、省力化も年々進み、その技術革新はめざましいものがある。

この、鋼橋の製作、施工とデザインの関わりについて研究することを目的として、鋼橋景観設計研究部会が設置され、活動を行っている。

“鋼橋を対象とし、設計方法、制作方法を考慮した鋼の持味をいかした、景観美に優れた橋梁について研究を行う”

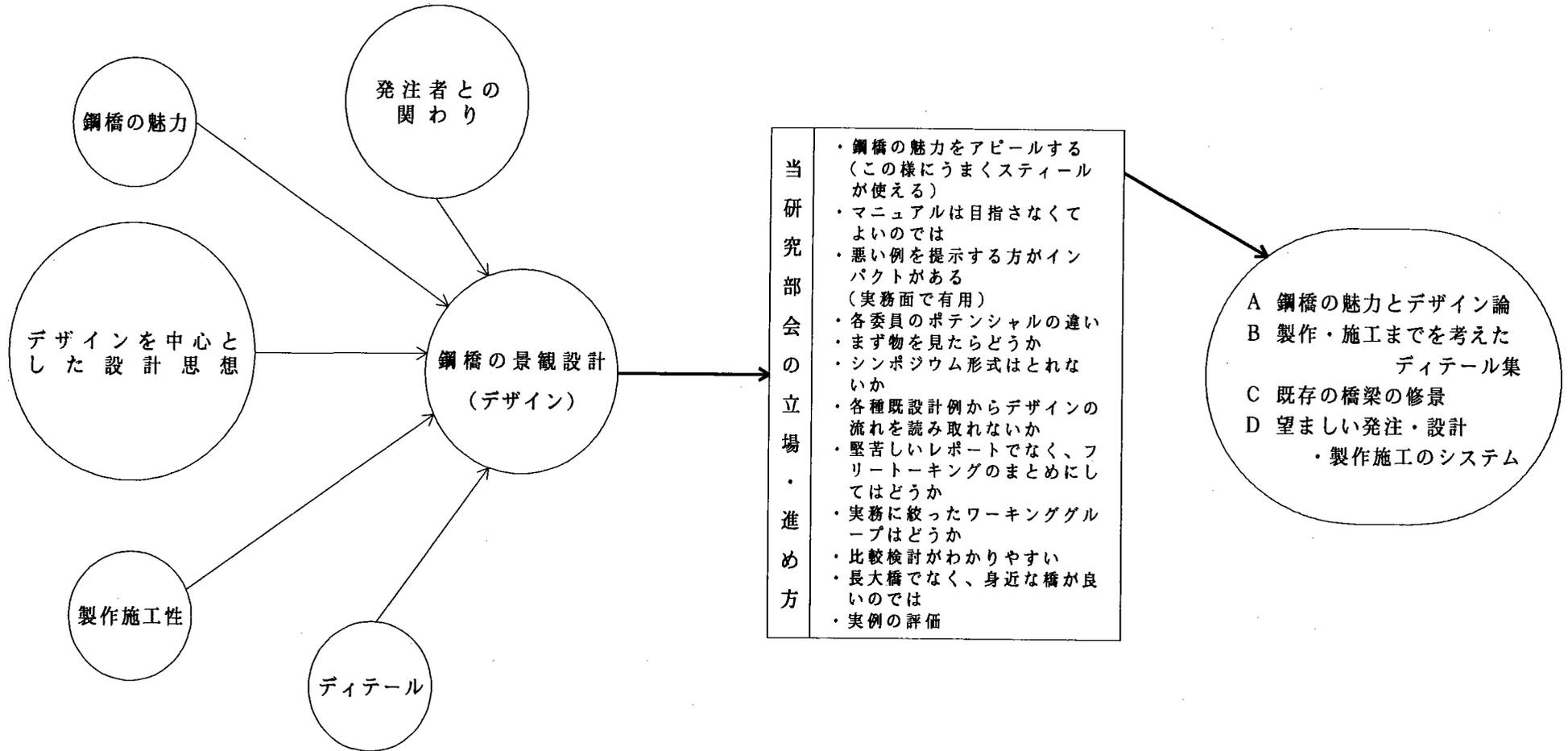
### 2-2. W. Gの内容

研究部会の活動に当たって、その運営方法について討議（そのまとめを次頁に示す。）した中からワーキンググループを設置することとした。

各ワーキンググループは以下の通りである。

- A 鋼橋の魅力とデザイン論
- B 製作、施工、管理まで考えたディテール
- C 既設計橋梁の修景
- D 望ましい発注・設計・製作・施工のシステム

## 幹事会でのフリーディスカッションのまとめ



## 2-3. 研究成果

以下に示すように、活動内容を外部に開いて、多くの方々と共に勉強してきたがまさしくそれ自体が研究成果であったと考えている。

- 第1回ミニシンポジウム「鋼橋の魅力とデザイン論」（平成4年7月21日、鉄鋼会館）
- 第2回 “ “ 「制作、施工、管理までを考えたディテール」（平成4年10月20日、鉄鋼会館）
- 第3回ミニシンポジウム「既設橋梁の修景」（平成4年12月9日、鉄鋼会館）
- 第4回 “ “ 「望ましい発注・設計・制作・施工のシステム」（平成5年4月2日、鉄鋼会館）
- 「Visual Structure」出版記念シンポジウム （平成5年7月19日、経団連会館）
- 「橋の景観デザインを考える」出版記念シンポジウム（平成6年7月5日、経団連会館）
- “ “ （平成6年7月19日、大阪建設交流会館）

研究部会としては、上記「橋の景観デザインを考える」をもって活動報告書にかえることとした。本書は、Aグループの活動報告を主体とし、B、C、Dグループのエキスをとりまとめたものである。

一方、本書に盛り込めなかった、B、C、Dグループの活動成果の中には、今後の参考となる内容があり、これを資料編として本報告書にとりまとめることとした次第である。